



Title	カナダフランス語における前置詞の特殊用法
Author(s)	西尾, 啓子
Citation	大阪大学言語文化学. 1993, 2, p. 85-96
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78179
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

カナダフランス語における前置詞の特殊用法*

西尾 啓子**

Le français parlé au Canada, surtout au Québec, est différent de celui de la France non seulement au point de vue lexicale mais aussi en ce qui concerne les emplois des mots outils. Le but de cette étude est de présenter les usages canadiens des certaines prépositions recueillies à l'aide du *Glossaire du parler français au Canada* et de vérifier la différence de ces usages par rapport aux emplois en France en consultant les dictionnaires tels que *le Dictionnaire de l'Académie*, *le Richelet*, *le Littré* et *le Grand Robert* aussi bien que *le Bon Usage*. Beaucoup d'usages qui ont cours dans le français québécois sont considérés en France comme des archaïsmes. C'est une des raisons pour lesquelles le français québécois est appelé le français de Molière. Nous avons aussi reconnu l'influence de l'anglais dans les usages des prépositions. Même en France il peut y avoir des cas où l'emploi correct des prépositions se varie selon des grammairiens. Il est donc compréhensible que la diversité des emplois caractérise le français au Canada où la norme n'est pas toujours bien fixée.

1 はじめに

カナダフランス語はフランスの一方言であると簡単に片付けられないほどの特殊性を持っている。語彙面での差異もさることながら、機能語や道具語と呼ばれる非自立的形態素の用法にも注目すべき点がある。本研究では、いくつかの前置詞に限って、フランスの現代フランス語とは異なるといわれているカナダフランス語の特徴的な用法について述べる。

*Emplois particuliers des prépositions du français canadien (Keiko NISHIO)

** 言語文化研究科博士後期課程

まず、詳細な調査の末、1930年にカナダで刊行された *Glossaire du parler français au Canada* より、フランスの現代の用法とは異なるとされる前置詞の用法を抜粋し、フランスで刊行された17世紀から現代までの辞書等において、どの時代にどのように記載されているかを確認するという作業を行なった。引用文献は、辞書では古いものから順に、*Académie*, *Richelet*, *Litttré*, *Robert* と文法書では *Bon Usage* を使用した。カナダにおけるフランスの植民地化が本格化したのは17世紀であることから、それ以降にフランスで刊行された言語辞典としては定評のあるもの、及び前置詞の用法に詳しい文法書として上記のものをを用いた。

例文中、カナダでの用例は通常の文字で、フランスでの用例はイタリック体で表記した。辞書の用例中、文学作品からの引用は、その作者名だけを記した。便宜上、例文の日本語訳は「...」で表し、辞書等の引用箇所は「[...]」で表した。

2 à

2.1 所有、所属をあらわすà

la maison à Pierre 「ピエールの家」

C'est le fils à Jacques. 「ジャックの息子です。」

フランス語ならば *la maison de Pierre*, *C'est le fils de Jacques*. となるべきところである。Litttréによれば [àを de の代わりに用いるのは古い用法で誤りであるが、田舎や、都市部でも労働者階級では俗語的な用法として実際は使われている。例: *la femme à Jean*, *la fille à Thomas*] とある一方、[人間+à+人間(人名)では血縁関係は表せない。deを用いるのが正しい。] ともしている。Robertによると [現在では口語、俗語、あるいは誤用といわれているが、フランスの古語ではごく普通に用いられていた。] とある¹⁾。

2.2 à matin, à soir, à tous les matins

フランス語では *ce matin*, *ce soir*, *tous les matins* となる。Robert は、文語的、あるいは古風な言い回しとして、*au matin*, *au soir* を挙げている。*Il est parti au matin*. 「彼は今朝出発した。」また古語として *à ce matin* も挙げている。

¹⁾ フランスでも所有を表すのに à を用いるが、後に代名詞が続く。un ami à moi. 人名が続くときは de を用いる。la maison de Pierre.

2.3 de にとってかわる用法

à neuf = *de neuf*

Elle est habillée à neuf. 「彼女は新しい服を着ている。」

フランス語では *à neuf* で「古い服を修繕し、新品同様にして」の意味になり、*de neuf* で「新しい服を」の意味になる。

à bonne heure = *de bonne heure* 「早い時間に」

Robert には [*à la bonne heure* は現在では「良いときに、運よく」を意味するが、古語では「早い時間に」の意味で用いられていた。] とある。

à moins = *de moins*

pas un sou à moins 「一銭たりとも」

2.4 ou の意味で用いる à

sept à huit personnes 「7人か8人」

à は連続しない2数の中間の任意の数を表す。例えば、*cing à dix personnes* 「5人ないし10人」 一方、連続する数の場合、その中間は考えられないので *ou* を用いるのが原則である。ただし連続する数の場合も長さなど中間の考えられる数の場合は *à* で差しつかえない。Littréによれば、[*Dictionnaire de l'Académie* の最新版では *Il y avait sept à huit personnes.* とあるが、文法家の間ではこれは *sept ou huit* とすべきだという共通の見解ができています。従って、*sept à huit livres* という使用法は誤りで俗語だ。] と指摘している。

2.5 partir à = *partir pour*

partir à la campagne 「田舎へ出かける」

Il est parti à Montréal. 「彼はモントリオールへ行ってしまった。」

Robert には [*partir à* は動詞が過去の場合、且つ、補語が具体的な場所ではなく、活動を表す場合のみ容認できそうだ。例： *Il est parti à la guerre.* 「彼は戦争に行ってしまった。」 純粹主義者は *pour* 以外の前置詞は容認できないとしているが、実際には多くの作家が他の前置詞も使っている (*à en, dans* など)。 *Hippolyte partit à Neuchâtel.* (Flaubert) 「イポリットはヌーシャテルへ行った。」] とある。

3 après

être après + 動詞「…の最中である」「…しているところだ」

Littre²によると [*Il est après s'habiller.* はよく耳にする用法だが、誤りである。*Il est après à s'habiller.* というべきだが、この用法も既に古いので現在では、*Il est à s'habiller.* が適当である。] 一方、Robert には [古い用法で *être après à faire telle chose* は「…をしている最中だ」] とある。

4 avec

4.1 de にかわる用法

Qu'est-ce qu'on va faire avec tout ça? 「それで何をしようというのだ。」

robe doublée avec de la soie 「絹の裏のついたドレス」

Bon Usage によると [*dîner de soupe* は *dîner avec de la soupe* よりエレガントで正しい用法であると Littre の *dîner* の項にあり、avec を用いるのは田舎の人間に限った用法としているが、avec を用いると生き生きとした表現になるし、実際あちこちで見受けられる。例: *Il avait dîné d'un os où il restait un peu de viande et d'un morceau de pain.* (Hugo) 「彼は、肉がわずかに残った骨と一切れのパンで夕食にしていた。」 *Il dînait avec du pain et des pommes de terre.* (Hugo) 「彼は、パンとジャガイモで夕食にした。」] との記載がある。

4.2 par の意味で用いる avec

Je vous enverrai vos marchandises avec le bateau. 「あなたの荷物は船で送ってあげましょう。」

4.3 dans にかわる用法

J'ai rien à faire avec cette discussion. 「私はその議論には無関係だ。」

Robert に [*Je n'ai rien à faire avec lui.* 「彼とはなんの関係もない。」] という例文があるが、avec 以下は人で、[人との何らかの関係を表す] とある²⁾。

² 英語の *have nothing to do with* からの類推とも考えられるし、*Je n'ai rien à voir avec* + 物との類推も考えられる

4.4 avec pas で sans の意味になる場合

Il est parti avec pas un sou dans un poche. 「彼は無一文で出発した。」

5 chez

la famille de, les gens de, la maison de 「…の家族、…の家のひと」の意味で用いる。

Chez nous vont venir. 「家の両親が来る。」

Chez Baptiste sont allés en ville. 「バプテストの人達が町へ行った。」

6 contre

de contre で「そばに」の意味になる。

s'asseoir de contre quelqu'un 「人のそばに座る」

Bon Usage にはカナダ語法として [venir de contre quelqu'un 「人のそばに来る」] とある。

7 dans

7.1 à や autour de の意味で用いる dans

avoir des souliers dans ses pieds 「足にスリッパをはいている」

avoir une cravate dans le cou 「首にネクタイをしめている」

avoir un panier dans le bras 「腕にかごをさげている」

フランス語にも *à la main* 「手に」と *dans la main* 「手の中に」の2つの用法がある。

7.2 à peu près de の意味で用いる dans

C'est un homme dans votre taille. 「それはあなたとほぼ同じ背丈の男だ。」

Elle est dans vos âges. 「彼女はあなたと同世代だ。」³⁾

³⁾これは *dans les* がおよそ、約を意味するところからの類推であろうか。あるいは、フランス語ならば *Il est de votre taille.* といえるので、*de* にとって代わっているとも考えられる。

7.3 「およそ」を意味する *dans* を用いた言い回し

dans les alentours de = *environ*

Il a *dans les alentours de* cinquante ans. 「彼は 50 歳前後だ。」

dans les à peu près de = *à peu près de*

Je lui ai donné *dans les à peu près de* cinq cents piastres. 「私は彼に約 500 ピアストルやった。」

7.4 言い回しのなかで *à* にとって代わる *dans*

dans le pied de = *au pied de*

dans le bord de = *au bord de*

dans une profondeur de = *à une profondeur de*

dans les environs de = *aux environs de*

8 *de*8.1 *à* のかわりに *de* を用いて補語を導く場合

être prêt, condamner, se refuser, songer, chercher, être disposé aimer + de これらの動詞は現代のフランス語ではすべて *à* を用いるが、古い用法では *de* も用いていた。

8.2 言い回しのなかで *à* のかわりに用いられる *de*

de reculons = *à reculons* 「後ずさりして」

de rebours = *au rebours* 「逆方向に」

de la hauteur de = *à la hauteur de* 「の高さに」

8.3 *depuis* の意味で用いられる *de*

Elle est morte du mois dernier. 彼女は先月亡くなった。

Richelet にも *depuis* の意で用いられる *de* の例が挙がっている。[*Ils font de tout tems (sic.) ennemis*. 「彼らは以前からずっと敵対している。」⁴⁾]

⁴⁾ フランスでも話し言葉では *depuis* の代わりに *de* を使うことがある。 *De combien? = Depuis combien?*

8.4 虚辞の de

- avoir de besoin de = *avoir besoin de* 「必要である」
 avoir de coutume de = *avoir coutume de* 「習慣がある」
 faire de cas de = *faire cas de* 「を尊重する」
 faire d'exception pour = *faire exception pour* 「の例外をなす」
 croire de = *croire* 「を信じる」
 compter de = *compter* 「を数える」

9 devant

時間的に前を表す。

J'ai fini devant toi. 「私はおまえより早く終わった。」

Littré には [時間的な先行性をあらわす] とある。Robert には [古い用法として時の前置詞。La poule ne doit point chanter devant le coq. (Molière) 「めんどりは決しておんどりより先に鳴かないはずだ。』] とある。Bon Usage によると [avant は時と場所の両方に使えるのに対し、devant は通常、場所にしか使えない。歴史的には、17世紀末頃までは devant が時間的な意味にも用いられていた。] とある。

10 en

10.1 à の意味を表す en

- arriver en temps = *à temps* 「時間どおりに到着する」
 fermer en clef = *à clef* 「鍵をかける」

10.2 場所を表すのに au や à la のかわりに用いる en

Il est en cour. 「彼は中庭にいる。」

Il est en chambre. 「彼は部屋にいる。」

Littré によると、[en には休息の概念を伴って「... のなかで」という意味がある。Nous nous tenons en une chambre bien close. 「私達はしめきった部屋の中にいる。』] とあり、Bon Usage には [職人が店や仕事場を持たず、部屋のなかで

作業をするとき、*en chambre* という。これ以外では通常 *être dans sa chambre* という。特に具体的な用法では、*en* は *dans* にとって代わられた。現代フランス語では、3次元空間に関するときは *dans* を用いるのが一般的である。』とある。

10.3 à のかわりに *en* を用いる言い回し

en abandon = *à l'abandon* 「投げやりに、ほったらかしで」

en lieu de = *au lieu de* 「のかわりに」

Littré によると [17世紀には現代の *à* のように *en* を用いた。*Mettez-vous en ma place...* (Molière) 「私の身になってごらん。』とある。Bon Usage には *à* と *en* が競合状態にある様々な言い回しがのっている。*à bas de*, *en bas de* 「の下に」、*à la retraite*, *en retraite* 「現役を退いて」など。

10.4 *dans le (la, les)* を意味する *en*

travailler en chantiers 「建築現場で働く」

Littré には *dans la rue* のことを表すのに *en rue* を用いた例を挙げている。[*Je suis logé chez la veuve Petit, en rue Genti.* 「私はジャンティ通りの未亡人ブレイさんのうちに泊まった。』

10.5 様々な名詞について最上級の意味を表す *en*

en démon, *en cheval*, *en cochon*, *en chien*

すべて *en diable* 「非常に」の意味を表す。

11 *par*

11.1 副詞句で虚辞的に使われる *par*

par ainsi, *par exprès*

Littré によると [*par ainsi* という言い方は古い用法で、現在は民衆の間に残っているだけである。*Par ainsi, tout esprit n'est propre à tout sujet.* (Régnier) 「このように全ての気質が全ての人に特有だというわけではない。」また、*par exprès* は俗語で正しい用法ではない。歴史的にみると、誤りとは言えないが、古い用法

である。副詞の *exprès* は、名詞的用法の形容詞 *exprès* の前についた *par* が欠落したものと説明できる。] としている。

11.2 虚辞的に他の前置詞につく

par après = *après*

par avant = *avant*

par dans = *dans* Il s'en allait *par dans* le milieu du chemin, quand il a été frappé *par un* (sic.) auto. 「彼は道の中央に出て行って、車にひかれた。」

par derrière = *derrière* Il demeure *par derrière* chez nous. 「彼は我家の後ろに住んでいる。」

par sous = *sous*

Littre によると、[*par* はその後続く前置詞と共に別の複合前置詞を作る。

par chez = *par la demeure de*

passer par chez quelqu'un 「人の家を通っていく」

par entre = *par l'entrevalle de*

par après = *dans la suite* ただし古い用法

par devant = *en traversant le devant*

En passant par devant la chambre d'Angélique. (Molière) 「アンジェリックの部屋の前を通って。」と記載されている。

11.3 *du côté de* の意味で用いられる *par*

Viens-tu par chez nous? = *Viens-tu du côté de chez nous?* 「家のほうにこない?」

12 *pour*

過去について *pendant* の意味を持つ。

Il a été absent *pour* deux heures. 「彼は2時間いなかった。」

フランス語では未来についてのみ「…のあいだ、…の予定で」の意味で用いられる。*Je vais en France pour deux ans.* 「私は2年間の予定でフランスへ行く。」

13 sous

13.1 en の代わりに用いられる sous

sous considération = *en considération* 「考慮にいれて」
英語の *under consideration* の敷き写し。

13.2 dans の代わりに用いられる sous

sous les circonstances = *dans les circonstances* 「その状況では」
英語の *under circumstances* の敷き写し。Richelet によると [*dans* のかわりに *sous* を使うことがある。例: *sous espérance d'un grand succès* = *dans l'espérance d'un grand succès* 「大成功を収めることを期待して」] とある。

14 sur

14.1 sous の意味で用いられる sur

sur sa responsabilité = *sous sa responsabilité* 「彼の責任で」
Académie では [*sous prétexte* が正しいが、冠詞がつくと *sur* になることもある。 *Sur un si léger prétexte il osa bien lui dire.* 「ごく軽い口実をもうけて、彼は敢てその人に言った。」また、*sur peine de* は *sous peine de* と同じである。]
としている。

14.2 dans の意味で用いられる sur

sur la rue = *dans la rue*
Bon Usage によると [一般にフランス語では *rue* 以外には *sur* がつく。 *sur la route, sur le chemin, sur l'avenue* というように。一方、*rue* に関しては *dans la rue* 「通りで、街頭で」と *sur la rue* 「通りに面して」という区別がある。ところが、ベルギーやカナダでは、オランダ語や英語の敷き写しで *dans la rue* の意味で *sur la rue* を用いる。しかし、全くゲルマン語の影響下でない地域にも見られることがある。例: [...] *aux vendeuses de bibelots sur les rues.* (Préchon) 「街頭で哺乳瓶を売っている女に …。」これは *sur la route* の類推である。] と記載されている。

14.3 sur semaine = en semaine

英語の敷き写し。

14.4 être sur son départ = être sur le point de partir

「出発しようとしている」Richeletによると[*être sur son départ* はエレガントな表現で「出発の用意ができている」の意。]とあり、Académieには[surは時間を表し、*durant, environ, vers*の意味を持つ。例：*Ils sont sur le retour.*「彼らは今に帰ってくる。」]とある。

15 vers

de vers = *du côté de*「の方から、の方へ」

Je l'ai vu passer, il venait de vers l'église.「私は彼が通り過ぎるのを見た。彼は教会の方からやってきたのだ。」

Académieには[*devers*は場所の前置詞で*du côté de*の意。]とあり、Robertにも[古語で*vers*の意。例：*Tourne un peu ton visage devers moi.* (Molière)「おまえの顔を少し私の方へ向けなさい。」]とある。

16 むすび

筆者が修士論文で、364語の食文化用語についてその語源を調べた結果、古語のしめる割合は18%弱と比較的小さかった。名詞が大部分を占めていたことと、食文化用語という性質上、英語の影響や造語の割合が大きかったといえる。一方、前置詞では英語の影響も散見されるが余り大きくはなく、古い用法が色濃く残っていることが明らかになった。もともと前置詞の用法は現代フランス語においても揺れが見られるなど、文法家により見解の相違がある場合も多い。カナダでは規範を明確にする動きもフランスほど激しくなく、従って、一般に前置詞の用法も幅広く容認されているといえよう。

Glossaire du parler français au Canada でカナダ特有としてあげられている用法はほとんどが口語的なものであると思われる。従って、カナダではカナダの用法のみが存在するのではなく、フランスの辞書が言うところの「正しい用法」は、カナダにおいても正しい書き言葉として存在する。

Glossaire は記述的な辞書であり、一方、フランスの辞書は多分に規範的な性格を有しているので、同列に比較対照するには確かに無理がある。口語、俗語、誤用と記載のあるのは話し言葉として存在する証拠であるから、Glossaire がカナダ的用法であると指摘していても実際はフランスの話し言葉や地方語に同じ用法が見られる場合もあると思われる。

Glossaire では同列に論じられているが、前置詞の意味そのものが標準フランス語とは異なることから来る用法の違いと、ある言い回しの中で違った前置詞を用いる表現の違いとがある。概して、用法の違いは古いフランス語の影響を受け、表現の違いは英語の影響を受けている場合が多いといえよう。

本研究の限られた資料では、全ての用法の起源を網羅的に明らかにできたわけではないし、フランスのごく一部の方言に現在残っている可能性もあるが、今後の課題としたい。また、辞書の記述を比較してみると、口語、俗語、誤用の境界線をどこで引くかも興味ある課題として残っている。

引用文献

- Littre, Emile, *Dictionnaire de la langue française*, 7 vol., Paris, Gallimard/Hachette, 1958.
- Richelet, Pierre, *Dictionnaire de la langue française ancienne et moderne*, 3 vol., Lyon, Les Frères Duplain, 1759.
- Glossaire du parler français au Canada*, Québec, Les Presses de l'Université Laval, 1968 (réimpression de l'édition 1930).
- Le Grand Robert de la langue française*, 9 vol., Paris, le Robert, 1985.
- Grevisse, Maurice, *Le Bon Usage*, 12^e édition, Paris-Gemloux, Duculot, 1986.